



センター試験

19日(土)、20日(日)は大学入試センター試験。19日が地歴・公民+国語+外国語の文系科目、20日が理科+数学の理系科目であった。新聞に問題と解答が掲載されているので解いてみた人もいるだろうし、20日の午後からは「チャレンジ・センター試験」という、高1~2生向けの実物の問題を使った模試?も実施されたので、それを受けた人もいるだろう。(15Rでは4名)

*

私も仕方ない?ので、日曜日の朝刊に載っていた国語の問題を解いてみたが、なんと漢文の問一の(1)を間違ってしまった…。同じ意味の漢字を含む熟語を選べという基本的な問題で、本文では「手づから」と読む「手」が問題となっていたのだが、この「手づから」は「自分で」の意。だから、①「名手」②「挙手」③「手記」④「手腕」⑤「手法」の中では、③「手記」が正解となるのだが、「自分の手で」でもあると思って、うっかり②「挙手」を選んでしまった。とほほ…。ちなみに、漢和辞典で引くと勉強になるので、(2)「致」も含めて確認してみるといいだろう。

その他の問題はなんとかクリアしたが、なにせ今年の問題は時間がかかった。なぜなら、とくに現代文の問題で紛らわしい選択肢が多く、「こういう答えだろう」と予想した解答が選択肢の中になくて、選択肢を何度も読み返しながら「誤りを消す」ということをしなければならなかったからである。この「誤り

を消す」というのは、センター試験解法の基本テクニックで、テクニックとして活用することはいいと思うが、そうでないと解けない、つまり、それなしでは正解が選べないという問題はどんなのだろうと思ってしまった(東京都の自校作成問題は、テクニックとは別に、ちゃんと正解を選べる問題になっている…)。

*

各予備校の講評を見てみると(裏面に一例を掲載)、国語に関しては、どの予備校も「難しめになった」という評価であり、私のそう思う。現代文は、評論・小説とも、文章そのものが難しいというよりは、設問が(今書いたように)消去法でないと正解が決まらなかったり、直接的な根拠が見つからなかったりして時間が取られるものが多いというのがその理由。ただ、消去法の練習にはなりそうな問題ではある。古文は、ストーリー(主語)の展開を正確に追跡することと、登場人物の心情を本文に即して読み取ることが難しい問題であった。漢文は、出題されている句法なども含め、唯一例年並みの難易度であったが、それにしても文章全体に通底する筆者の思いを読み取ることが出来ない、今一つ確信のもてないまま解答を選ぶことになってしまったことだろう。

*

今日は3年生は自己採点。放課後には結果が集計されるが、他教科も含め、持っている力を出し切ってくれたことを期待したい。